

館林竜巻被災者義援金を寄贈

7月27日に発生した竜巻は、大小3つの竜巻が合体し大きくなり、館林市の中心部を西から東へ横断する形で通過しました。

館林市の被災状況調査では、住宅や作業場など合計で419件の被害となり、車両についても33台の被害をもたらしました。

連合群馬は、「被災者支援のカンパ」を呼びかけ、1,226,265円を集約し、11月2日に館林市役所を訪れ、金井田副市長に寄贈しました。



↑ 金井田副市長に義援金を手渡す大橋会長(左)

金井田副市長から、「みなさんから貴重な義援金をいただき大変感謝します。配分委員会を開催し、被災者にお渡したい」とのお礼の言葉がありました。

青年委員会 自然体験活動を実施

11月6～7日、国立赤城青少年交流の家で開催し青年委員を含む11産別・26名が参加しました。

自然体験活動では、産別の枠を超えた仲間づくりを目的に開催し、少人数グループ編成によるオリエンテーリングなどの野外交流を通じて、日頃は意見を交わすことのない他業種の会社事情や労働条件、産別活動など幅広い内容も含めてコミュニケーションをはかりました。

翌日は、青年活動で必要なことなどのグループディスカッションを行い、今後の取り組みにつなげていくことを共有しました。



労福協 第4次海外植林ボランティア

11月12～16日、マレーシアのサバ州（ボルネオ島）キパック村で行われ、木暮副会長（労福協）を団長とする総勢21名を派遣する中で、連合群馬から1名が参加しました。

この第4次海外ボランティアは、3年契約の最終年となる取り組みで現地の熱帯雨林を『ぐんまの森』と命名し活動を進めてきました。外来種によって生態系が崩れてしまった森を再生させることを目的に、フタバガキなど4種類の苗木を植林し水源確保などに取り組みました。

植林作業は、ワーカーとして現地の村人や研修で来ている学生ボランティアの協力を得て約千本の苗

木の植林を行いました。この時期のボルネオ島は雨季ですが、幸い植林作業中はスコールに見舞われることもなく、大変恵まれた作業となりました。

植林するだけでなく現地の方との交流を目的とした夕食会では、日本のカレーライスとうどんを振る舞い、太うどんは珍しいらしく大変喜ばれました。現地の小学校訪問では、子どもたちの歓迎の踊りや合奏、植林チームから写真を用いた日本の学校紹介、サッカー・なわとび・折り紙・あやとりなどを通じ交流を深めました。



↑ 植林地にて現地の方と記念撮影



↑ 急斜面での植林作業



なわとびで交流→



↑ あやとりを教える参加者